

2展同時開催で振り返る100年の歴史

1/15 [Fri]~4/4 [Sun]

多久市郷土資料館では「記念物100年」展（主催：文化庁、協力：郷土資料館）と「多久聖廟史蹟指定100年」展（主催：郷土資料館）を同時開催しています。

「記念物100年」事業は、文化庁が令和元年度から令和3年度まで行っているもので、指定の記念物を写真で振り返ることができます。また、今年は多久聖廟が史跡に指定されて100年目を迎え、指定の際の記録や本堂の屋根の変遷、多久茂文公の多久聖廟創建の思いが記された文書などを楽しめます。

郷土資料館の山口佐和子職員は「全国の記念物や多久聖廟の歴史の面白さを味わっていただきたい」と多くのみなさんの来場に期待を寄せています。



▲「多久聖廟史蹟指定100年」展の鬼瓦

▲「記念物100年」展では各地の記念物を解説文付きで楽しめます

年を越しての「御焚上」

1/24 [Sun]



▲野中住職（左側）によるお祓いの儀式の後、古いお札やお守りに炎が立ち上がりました

多久市物産館「朋来庵」（多久町）のお火たき広場サークル内で、多久聖廟の「御焚上」が行われました。

お火たき初詣実行委員会（事務局：多久市観光協会）が主催する「御焚上」は、昨年的大みそかに開催予定だった「お火たき」が新型コロナウイルスの影響で中止となったため、その代替えとして今回「御焚上」形式での開催となりました。

当日は、聖光寺（多久町）の野中寛応住職によるお祓いの儀式が行われ、厳粛な雰囲気の中、多久聖廟を訪れた参拝客が持ち寄った古いお札やお守りに炎が立ち上がりまし

多久市観光協会の渡辺尚正事務局長は「無事に御焚上できてよかった。ようやく年を越せた思いだ」と話しました。

ひまわりの会に厚生労働大臣表彰

1/27 [Wed]

「朗読ボランティアひまわりの会」が令和2年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰を受章されました。

同会では平成5年から市報の朗読や福祉施設への訪問、幼児への絵本の読み聞かせのほか、市内の清掃やチャリティー募金など幅広く活動されています。

平成31年2月からは「声の市報」として、YouTube動画の配信も始められ、幅広い人たちに「声の市報」を聞いてもらえるように工夫しながら活動されています。

田島恭子会長は「前会長の北島文世さんら諸先輩方が、これまで活動されてきたからこそ今回の受章につながった」と、受章の喜びを話されました。



▲表彰状を手にする田島会長（前列中央）とひまわりの会のみなさん